

# 市長との懇話会 議事要旨

1 日時：平成26年11月26日（水） 9：30～11：30

2 場所：千葉市役所 8階 正庁

3 参加者：熊谷市長

各区町内自治会連絡協議会 会長・副会長・女性役員 17名

市民局長、市民自治推進部長

各区地域づくり支援室

地域福祉課、高齢福祉課、都市計画課

事務局（市民自治推進課）

## 4 意見交換テーマ

- (1) 地域における見守り活動について
- (2) 都市計画道路について
- (3) 地域運営委員会について
- (4) 市連協のあり方について
- (5) フリートーク

## 市長

皆様との意見交換を楽しみにしていた。もう少しで総選挙ということで、年末に向けて忙しくなる中、地域の方々には投票所の立ち会い等をお願いすることになるかと思われる。そういった意味では、職員のみでなく、地域の方々へも予定していない対応をお願いすることになる。最近では、選挙事務等においてのミスも出てきていることもあり、忙しい中でも緊張感を持って、信頼を得られるよう執行にあたりたい。

ちょうど今の時期、市政の方は来年度の予算編成に入るが、今の状況からすると、消費増税の見送りがほぼ確実であり、市の収入や社会保障政策等への影響に予断を許さない状況である。

また、平成27年度の予算編成は、平成26年度の予算編成当初に見込まれていた収支不足よりも不足が多く、予算編成が非常に難しい状況である。そういった中での消費増税先送りであるので、我々としてはかなり危機感をもって予算編成に臨まなければならないと感じている。

現在、過去の借金の償還ピークを迎えていることもあり、当然、事業の見直し等を以前から行ってきてはいるが、これ以上簡単に削減できる分野が無くなってきている。皆様からお預かりした税金を1円でも有効に活用し、どのようにこの局面を乗り切っていくかについて、様々な知恵を巡らしているところである。

それから、超高齢社会がいよいよ近づいて来ている中で、地域包括ケアシステムという言葉に代表されている通り、将来的には施設側の整備に限界が出てくることは必至である。例えば、特別養護老人ホームの入所基準が、かなり介護度が高い方しか入所できないように制度が見直しをされていて、今まで特養に入居されていた方々が在宅で介護、医療を受ける時代が来ている。今までのように、介護が必要

であれば施設へ入所するといった軌道が修正され始めている。

今後は、できる限り、住み慣れた地域で介護を受けられるといった地域社会づくりに向けて、本気で取り組まなければならない局面に来ている。我々としては、今年度も地域包括ケアシステムという形に合わせて担当課長を設けているが、翌年度もさらに組織を強化していきたいと考えている。

しかし、これを実現するためには、地元の診療所や医師の方々在宅の医療というものについて理解していただかなければならない。昔あったような往診が減っている中で、医療職や介護関係者の方々と横の繋がりも作っていかねばならないと考えている。そういった繋がりを持てるよう、例えば、医療職や介護関係者の方々との会議を設けて意思疎通を図ったり、また、24時間体制の訪問介護といった事業を積極的に推奨していくような取り組みを一つひとつ重ねているところである。

しかし、国も市も目指すべき姿を持ってはいるものの、現実にはなかなか簡単にはいかないことである。悪戦苦闘しながらも、2025年問題も危惧されている2025年に向かって、時間を区切って取り組んでいくことになるので、地域社会の担い手であり、地域のリーダーである皆様の意見を十分に伺いながら、現実的な現場にあった政策の積み重ねをやっていきたいと思っている。

本日は皆様の御意見や御質問を伺いながらお答えしていきたいと思う。

## **緑区連協**

司会進行を行う立場として、実りある議論にしたいため、テーマを絞りたいと思う。

そこで、(1)地域における見守り活動について(2)都市計画道路について(3)地域運営委員会について(4)市連協のあり方について意見交換等し、その後に時間があればフリートークとしたい。皆様からの積極的な発言をお願いしたい。

### **(1)地域における見守り活動について**

## **中央区連協**

見守りについてであるが、中央区では社協地区部会が16団体あり、そのうちの7つで、地区連協あるいは町内自治会と一緒にあって見守り活動を行っている。その内容については、まず、見守りに関するアンケート調査を行って地域の実態を見て、その後に見守り隊を組織して見守りを実施していくという流れである。

なお、社協生浜地区部会であるが、今年度、中央区の地域活性化支援事業の補助金を受けて、「あらたな力で見守るまちづくり生浜」という組織を立ち上げた。この組織は、社協生浜地区部会はもちろん、地区連協、民児協、学校、PTA、青少年育成委員会、スポーツ振興会の代表が入って組織されている。この組織の目的は、地域の見守りの担い手の育成と組織化である。取り組んでいる主な内容は三つあり、一つ目は、緊急災害時の対応と見守りについてのテーマを中心にシンポジウムを行い、見守りの意識向上と担い手を育成することである。二つ目は、避難行動要支援者名簿に基づく支援体制を構築すること、三つ目は、子どもに対して犯罪や交通事故から守るための見守りネットワークを構築することである。

そこでは、毎月1回の会議を開催しているが、会議を二つの分科会に分け、一つは町内自治会が中心

となって要支援者に対する見守りについて、もう一つは青少年育成委員会が中心となって子どもの見守りについて討論している。

10月18日には、生浜の将来を考えるというシンポジウムを開催し、中学校の体育館を借りて、450名近くの参加者が集まった。パネルディスカッションも行い、参加者からは本当に素朴な質問や意見等が寄せられ、非常に盛況であった。

今後、要支援者に対する見守りについては、提供される避難行動要支援者名簿に基づき各町内自治会で支援体制を築いていくことになっている。子どもの見守りについては、こども110番という制度があるが、それがなかなか活用しきれていないというところがあり、また、そのステッカーが分かりづらいので、旗を作成し、子どもたちに十分周知させていこうと動いている。

この他にも、生浜地区には障害者施設や介護施設が他の地区に比べて多いので、あんしんケアセンターをお願いし、話し合いの場を設け、要支援者を災害時にどう守るかについてや、福祉施設としての対応について検討した。今後も引き続き、話し合いを継続してネットワークを構築していきたいと考えている。

### **緑区連協**

町内自治会、社協、地域福祉計画推進協議会等のそれぞれが実施している同じような見守り活動の一つにしていこうという動きは大変参考になる。

緑区でもばらばらになっている動きを一本化できればと動いている。

### **稲毛区連協**

中央区の活動は素晴らしいと思う。地域に集合住宅が多いか、一戸建てが多いかで状況が変わってくるであろうが、防災、防犯、見守りが三者一体となっているように感じる。青少年育成委員会や社協等を横にしていくことは難しいであろうが、命にかかわることは全て見守りであるという意識が大切であろう。

ただし、独居老人等の見守られる側の意見として、見守られることはありがたいが、逆にそれが負担でストレスにもなっているという話も聞いている。私は見守る側という側面でしか考えていなかったが、今後は見守られる側の心理も考えていかなければいけない。それは私の地域での一番の課題でもある。

どうしても行政が縦割りであるので、横にしていくのは大変であるが、公民館が指定管理者制度に移行する予定とのことで、公民館が横一本になるような体制になってくれれば良い。

### **緑区連協**

例えば、我々の地域ではアンケートを取って、世帯ごとに見守りが必要か否か確認したが、その中には必ずしも独居老人や高齢者だけでなく、夫婦が共働きで家にいない状況での子どもを見守って欲しいとの意見があった。

### **花見川区連協**

実際に活動している町内自治会からすれば、どうしても活動範囲は狭くなってしまう。狭くないと実施できない。大きな町内自治会は班単位で実施しているところもあるであろう。また、見守りすること

を決めた団体も、実態としては実施できているところは非常に少ないと思われる。高齢化が進んで見守りが必要であることは分かるが、各団体が別々に実施していることを一元化することは難しいであろう。

なお、高齢福祉課が平成23年度に始めた地域見守り活動支援補助金は補助上限額が15万円であるが、社協が平成25年度から実施している活動経費の補助については、補助額の割に手間がかかり過ぎる。

他にも、見守りを人だけで実施するには限界がある。私の地域では、だいたい1週間に1回程度実施しているが、それでも実際に孤独死が2人出てしまった。やはり、見守りは人だけに頼るのではなく、機械とも併用して考えていかなければならないことであろう。

また、見守りが必要な方をどこまで見守るべきかという問題もある。私の地域では、見守り対象となる方が要介護度認定を受けるまでとしていて、それ以降は市や地域包括支援センターに任せるという判断をしている。

### **緑区連協**

補助金であるが、社協は補助される金額の割に負担が大きい。

### **若葉区連協**

社協加曽利地区部会は積極的に活動していて、例えば、有料ではあるが、庭木の剪定等を実施している。青少年育成委員会は主にセーフティウォッチャーに力を入れている。社協や青少年育成委員会で主に活動していることは、町内自治会では活動しないようにしている。そういった形での棲み分けはできているつもりである。

なお、今度、避難行動要支援者名簿をいただくことになっている。確かに災害がいつ発生するか分からない状況ではあるが、一方で、常に名簿が悪用されてしまう可能性を警戒しなければならない。

そこで、町内にどういった方がいるかということについては、町内自治会長や副会長のごく一部の人にしか分からないような制度にするよう検討していて、それ以外の方については要支援者の状況を班の中でしか知り得ないような体制にしたいと考えている。情報漏えいを少しでも防止できるよう対応していくつもりである。

また、名簿を活用した際、基本的にはまず班で要支援者の対応をして、それでも対応ができなくなった際は本部に連絡してもらおうというようにする予定である。

### **緑区連協**

若葉区と緑区は社協の会合を設けている。先日も会合があり、いろいろ勉強させてもらった。

### **美浜区連協**

我々の地域では、地域の中学生をうまく活用しようとしている。昼間、大人は働いていることが多く、地域にいないことも多い。ここ10年くらいは学校とも協議し、中学生を防災訓練に参加させている。中学生は幼い頃からずっと地域で育っていて、大人よりも地域の状況を知っていることもある。中学生を社会資源として活用したいと考えている。

今年から中学生にも見守り活動に参加してもらおうよう、社協、民児協、安心ケアセンター等が中心と

なって講習会等を実施している。このような形で、中学生に見守りの感覚を養ってもらい、地域の見守り体制を強化できればと思っている。これは地域のためだけでなく、子どもが社会に出ていった時にも大きく役立つものだと考えている。

### **美浜区連協**

磯辺地区では、まず、磯辺まちづくり研究会という団体が見守りネットワークを立ち上げた。その後、ネットワークが大きくなった関係で、社協へ移管された。現在は社協と民児協と町内自治会が関係して見守り活動をやっている。実態として、ハードは行政、ソフトは地域が行っているような形であろう。

なお、以前に社協磯辺地区部会が日野市の高齢者見守り支援ネットワークを視察したとのことで、日野市は地域包括センターというものを設置し、地域と協力しながら見守りをやっているようで、非常に参考になったようである。行政と協力して見守りするとすると、行政側もやはり地域包括センターのようなものを設置する必要があるのではないかと感じている。今のところ、行政と地域が二重構造になっている面があるのではないかと。

また、私の町内自治会では、平成20年から支えあいカードというものを作成している。一方で、行政も避難行動要支援者名簿を作成した。これらを比較すると、前者の情報量の方が多い。行政では行政でしか、地域では地域でしかできないやり方がある。そういったことが一体となる必要があると考えている。

なお、子どもの見守りであるが、町内自治会ではセーフティウォッチャーを他の団体と協力して実施したいと考えていて、中学生の登下校時においても設置することを検討している。

### **緑区連協**

おゆみ野地区にも、高齢者が多い地域がある。実際に高齢者が多い町内自治会に対し、見守りについてのアンケートを実施したのだが、見守りが必要かどうかというところ、ほとんどが必要ないとの回答であった。敬老会でも同じような話を投げかけてみたが、見守りよりも助け合いに重きを置いてはどうかとの話があった。

### **高齢福祉課**

貴重な御意見をいただいた。その中で、見守られる方から拒否される実態があること、また皆様がどこまで支援すれば良いのかということについては、こちらとしても課題であると考えている。

市ではアンケート調査等も行っているが、今後、見守りネットワーク会議というようなものを立ち上げ、各団体から挙がってきた見守りに関する課題や問題点を吸い上げて、どういった見守りが良いのか等を研究していきたいと考えている。その中で、例えば、マニュアルや事例をピックアップした冊子を作成する等検討している。

それから、見守りの一元化についてであるが、市はだいたい300万円の年間予算を持っているが、これを委託や補助といった形で社協へ下して、一緒に運用していくようなやり方もあるのではないかと考えている。今後はそういった部分も検討していきたい。

また、市長から地域包括ケアシステムという話もあったが、まさに、これから地域の関係者の皆様が協力しながら支えあいをしていくことが大事であると考えている。若葉区連協からも話があったように、

有料ではあるが、500円程度で受けることのできる生活支援サービスもあるようである。

今後はシルバー人材センター、あるいは社協といった組織をうまく活用して、高齢者の方々を助けていきたいと考えている。

## 市長

見守られる側の負担を考えるとということは確かに難しい。防災もそうであるが、自分が危ないという状況になるまで、危なくなるということをなかなか想像できないところがある。認知症も同様に、自分が認知症になるという想像がつかず、その時になってから慌て出すということはやむを得ない事情である。

要支援者のケアもそうであるが、やはり、情報が知られていないと助けることができないので、見守りを必要とするか否か、そのどちらを取るかということに関しては、その方の生き方の選択になるのではないか。

そう言った意味でも、人生のライフステージ毎で何を早めにやっておくのかという地域講座のようなものは開催していかないとならないと考えている。しかし、行政は講座を開催したとしても、地域の実情毎に柔軟に対応することは難しい。やはり、町内自治会や社協等の様々な団体が連携していくことが大事なのであろうと思う。

また、これから高齢者の方は昔の高齢者の方と生活スタイルが異なってくることも予想される。そういったところも踏まえていかなければいけないと思う。例えば、コンビニに行った際も高齢者が多くいて、品物も高齢者向けのものが増えている。高齢者の行動パターンが変化していることが分かる。

皆様から地域の現場の実態を聞いて大変参考になった。

## (2)都市計画道路について

### 緑区連協

都市計画道路の今後の見通しについて話を伺いたい。

### 都市計画課

(配布資料「都市計画道路の見直しについて」を説明する。)

### 稲毛区連協

磯辺茂呂町線はどうなっているのか。

## 市長

磯辺茂呂町線を市としては大変重要視している。穴川インター付近の慢性的な渋滞は、市のみならず県としても大変重く見られている。この地域の渋滞緩和のために、国道事務所とも様々な協議をしている。抜本的な改善はできなくとも、磯辺茂呂町線を建設できれば、車両をかなり分散させることができ

ると考えている。

これは地域のためだけでなく、経済産業上でも極めて重要な道路と位置づけている。都市計画道路の中でも最上位に位置づけできるものである。

#### **稲毛区連協**

草野中学校前の道路確保地帯が有料駐車場になっている。磯辺茂呂町線は廃止されたと思っていた。

#### **市長**

駐車場であれば、すぐに動かすことができる。逆に、放置していると、資産の活用上良くないと思われる。駐車場の需要があれば、駐車場にして収入を得るという考えである。

#### **若葉区連協**

勤務していた頃は、都市計画道路建設のためにいろいろと協力してきた部分がある。しかし、それが突然無くなってしまうとなれば困ってしまう。都市計画道路は100年、200年かかることもある。まちづくりというのは非常に長い時間がかかるものであるので、簡単に廃止を決定してもらいたくない。特に磯辺茂呂町線は地域に関わりが深い道路なので、優先的に建設してもらいたい。

#### **市長**

都市計画道路については、20年、30年、50年、場合によっては100年かかる世界という認識はしている。しかし、計画存続路線についても、50年後に完成しているかどうか分からない状況である。また、50年後の社会を考えると、おそらく人口も減少し、交通事情も変化しているであろうから、状況によっては道路のメンテナンスで手一杯なことも想定しなければならない。

いろいろとまちづくりのビジョンに御協力いただいている中で、市としても非常に苦しいところであるが、都市計画道路の見直しは、まず、この道路の建設はでき得ないであろうところを廃止予定としている。しかし、これは今後変更される可能性もあるので、幅広く議論していきたいと考えている。

#### **若葉区連協**

都市計画道路が建設される前提でマンションが建っている地域もある。地域の状況を懸案して欲しい。

ある意味では、民間企業も協力して進行していることなので、突然行政側が見直すこととはどうなのか。そういった点も勘案していただきたい。

#### **緑区連協**

大規模な集合住宅が建設されている地域がある。今後、そこから多くの車が流れてくることを考えると渋滞の発生等の不安がある。開発業者と市とで、どういった話し合いが持たれているのか。

#### **都市計画課**

大規模な集合住宅の開発については、開発行為の中で、当然ながら道路、排水施設等が造られるようになっている。ただし、宅地に取りつく道路であるが、これは現道に取りつけることが一般的である。

確かに、取りつく先の現道が狭いとなると、渋滞の悪化等の心配はあるかと思われる。

しかし、分譲住宅は少しずつ建設されていくこと、全ての世帯が車を所有するわけではないこと、また、仮に全ての世帯が車を所有していたとしても、その全てが同じ時間帯に利用されるわけではないことを考えると、道路がパンクすることはないと思われる。ただし、例えば、通勤や通学の時間帯は踏切の遮断時間が多くなることもあるので、時間帯によっては渋滞する可能性はある。

### **花見川区連協**

例えば、道路幅を狭めてでも都市計画道路を早く建設するといったことはできないのか。道路幅は標準規格の16メートルでないといけないのか。

### **都市計画課**

都市計画道路は地域ごとに幅が異なる。

なお、現道については、例えば、バスベイや右折レーンが無いために渋滞してしまうところがあるが、そういった道路は局所的に道路幅を広げることで流れが良くなることがある。生活道路については、現場の状況を見て、都市計画によらずに整備するという選択肢もある。

### **(3) 地域運営委員会について**

### **(4) 市連協のあり方について**

### **緑区連協**

地域運営委員会と市連協のあり方について、市長の考えを伺いたい。

### **市長**

町内自治会や社協等、地域のために活動している団体のそれぞれが、可能な限り顔の見える関係であり、かつ連携できるといったことが理想であると考えている。そのような流れになるためにも、地域運営委員会というものをモデル的に試行させてもらっている。

ただし、地域運営委員会は画一的に考えるのではなくて、先ほど申し上げたようなものが実現できるのであれば、どういったパターンであっても、それが所謂この地域における地域運営委員会という位置づけにして、そこをまとめる方がまとめやすい形になってくれれば良いと思う。

もう一点の市連協のあり方についてであるが、これは以前に、市連協の補助金の流れについて、事務事業評価の指摘を受けてのものであるかと思われるが、私としては、市連協や区連協が不要であるという話ではなくて、お金の流れが二重構造になっていることが問題になっているのではないかと考えている。区連協ではできないことを実現するために市連協があるとするのであれば、それはそれで問題ないと思う。ただし、市連協がやらなくてもいいことをやっているのであれば、区連協との役割分担を議論すればいいと思う。目的に応じて、適切な組織形態になっているか、また、お金の流れが合理的であるか、そういったことが果たされるのであれば、どういった形でも良いのではないかと考えている。



### **緑区連協**

市連協の今後のあり方について、昨年度の区連協会長会議では一応の方向性が決定したが、当時の理事会では時期尚早という話があった。そのため、現在検討会を立ち上げて議論している。

### **若葉区連協**

現在は、例えば、市連協の総会があって、区連協の総会があってというように、屋上屋を重ねているような部分がある。私は儀礼的な会合は不要なのではないかと考えている。

しかし、町内自治会の方々が一同に会して情報交換する場は大切であるとする。また、市を通して国や県に要望を出す時に、市連協としての要望とする方がより強い効果が出るのではないかと考えている。市連協のあり方を検討する中で、より良いものになればと考えている。

## **(5) フリートーク**

### **緑区連協**

これからフリートークとしたい。

### **花見川区連協**

防犯街灯のLED化の件であるが、将来的には2020年で水銀灯が生産中止となる。電気料金の値上がりの影響もあり、町内自治会としては苦しい状況である。今後の市の対応を伺いたい。

### **市民自治推進部長**

電気料金の値上げに伴い、各町内自治会の負担は重くなっていて、そこを補助している市としても厳しい状況である。また、今後は水銀灯の生産が中止となってしまう。

そこで、第2次実施計画にも位置づけ、今ある水銀灯を一括してLED化したいと考えている。これはやはり、費用の面からもスケールメリットがないと実施できないものである。一度、皆様にも伺いを立てるが、賛同していただければ、市が一括して業者と契約し、随時LED化を進めていく予定である。

スケジュールとしては、来年度皆様への説明を開始し、次に業者との契約を進め、平成28年度には付け替え工事等を実施していくという流れで考えている。

### **花見川区連協**

地元企業への配慮はあるか。

### **市長**

道路照明灯をLED化した際、契約した企業には、極力、メンテナンスの面においては地元業者を活用して欲しいと要請した。こういったような形で努力していきたいと思っている。

### **稲毛区連協**

あやめ台児童福祉センターの廃止について伺いたい。ここは様々な団体が活用しているが、昨年度に突然廃止となることが決定した。これにはどういった理由があったか不明だが、廃止決定の段階において、どうして地域の代表としての意見を汲み取ってもらえなかったのか。一方的に決定されたことについて、私たちとしては納得ができない。

また、昨年度廃止となって以降、現状のままで残されている。なぜ使用することができないのか。

### **市長**

公共施設関係は地域の要望全てに答えることができない場合もある。必要であれば担当部署から私にも話が挙がってくるので、まずは担当部署とも話をさせていただきたい。

### **緑区連協**

避難所運営委員会について伺いたい。

おゆみ野地区には11か所の避難所がある。先日、防災対策課がこちらに来て、避難所管内にある病院との関係性や、避難した時の医療救護班は市から派遣されるのか等の話をした。

しかし、やはり、そこでも避難所への補助金がもう少し出ればという話があった。

### **市長**

確かに、避難所運営委員会の費用をいただきたいという話はある。市としては検討していきたいが、正直、簡単に決断できるものではない。

### **美浜区連協**

地域福祉計画のことについて伺いたい。

### **地域福祉課**

町内自治会の皆様には、日頃より、地域福祉の推進に御協力いただき感謝している。

さて、第2期地域福祉計画は今年度末で終了する。来年度から始まる第3期地域福祉計画であるが、現在のところ、第1弾の素案ができたところである。現在、11月の上旬から中旬にかけて各区で1回ずつ説明会を実施したところである。

第3期地域福祉計画のポイントであるが、第1期、2期については、重点取り組み項目を各区の推進協議会で決めていただき、地区部会を中心として地域の皆様に取り組んでいただきたいという形で進めてきた。しかし、第3期は地区部会を中心として、地域の皆様に重点取り組み項目を決めていただくという形にした。

今まで、重点取り組み項目の決定については地区部会が中心であったが、様々な御意見を伺う中で、地区部会の方から、「活動主体となるのは町内自治会の皆様なのだから、そこにもお願いしてもらいたい。」との話があった。それを受け、こちらから、市・区連協会議にて説明させてもらい、重点取り組み項目の決定について、町内自治会にも御協力いただきたいとお願いさせてもらった。今般、各部の重点取り組み項目が出そろったところである。

その他のポイントとしては、いわゆる自助・共助・公助の話になるが、今までは公助がどのように自助・共助を支援するかということがばらばらであったので、地域の皆様の取り組みに対して、社協はこういった支援を、市はこういった支援をするという点に分かるような形で計画書をまとめたたいと取り組みを進めている。

また、地域福祉計画という名称であるが、福祉という名がついてしまうと、例えば、子どもや高齢者がいない世帯には関係がないというイメージを持たれがちである。そこで、ここも一工夫して、第3期地域福祉計画は「支え合いのまち千葉推進計画」という名称を前面に打ち出して、これは地域の皆様に取り組む計画であるということを広報、啓発していきたいと考えている。

### **美浜区連協**

地域運営委員会の進捗状況についてお聞きしたい。

### **市民自治推進課**

現在、各所で地域運営委員会の設置について説明をしていて、御理解をいただいたところから順次準備を進めていただいているところである。現状としては、既に地域運営委員会を設立済みの地区が1つあり、そこは幸町1丁目地区である。また、地域運営委員会の設置に向けた準備会を立ち上げた地区、これが4地区あり、松ヶ丘地区、生浜地区、おゆみ野地区、ベイタウン地区である。その他として、設置に向けた方向性を持って協議を進めている地区として、蘇我地区、白井地区、誉田地区、真砂地区がある。

誉田地区については、ようやく必須となる5団体が集まって、意見集約、交換を始めたという段階である。他にも、ここにある配布資料には掲載していないが、磯辺地区については、地域ルームという空き教室地域開放モデル事業の延長線上にもある拠点整備の関係があることもあり、それが落ち着いたら地域運営委員会についても議論していこうと進めている状況である。

地域運営委員会は、地域全体が協力し、支え合うという趣旨と、その立ち上げ目的が地域福祉計画と合致している面もある。そのため、例えば、将来的に全地区に地域運営委員会が立ち上がった際には、その地域運営委員会の代表者が区の推進協のメンバーになる可能性もあるのでないかといったことも考えている。

いずれにしても、今年度、できれば8地区の地域運営委員会を立ち上げて、来年度もさらに8地区立ち上げ、そういった形で段階的に地域運営委員会を立ち上げ、それで地域が協力しあい、各団体がそれぞれに活動するのではなくて、それぞれが役割分担しあって、力を合わせて地域全体を見守れる、支え合えるような形になるよう取り組んでいきたいと考えている。

### **美浜区連協**

ベイタウン地区では、準備委員会という形で地域運営委員会を立ち上げようとしている。既に総会も行っていて、ある程度方向性も定まっている。その中で今一番問題になってくるであろうということは交付金のことである。交付金が出てきた時に、これをいかに経理するか、また、もう一つ、事務局がこれを経理するとなると、その負担はかなり重くなるであろう。これはもうボランティアではできない世界であろうと考えている。なぜなら、既に各団体が行っている経理だけでも十分大変な作業であるのに、

それをまとめてやるとなるとかなりの負担になるであろう。

なお、地域運営委員会は実施するべきであると考えているが、資金がないのでなかなか運営していくことが難しい。そこが一番の問題である。最終的に市が考えていることは、地域運営委員会の中で補助金を振り分けるということであろうが、そんなことができるのかが悩みである。

また、過去にも1度開催したことがあるが、ベイトウン地区では12月に大学教授を招いて地域運営委員会についての勉強会を計画している。

### 中央区連協

先ほどの見守りの話をお聞きし、セーフティウォッチャーについては、PTAや子ども会の方々とも積極的に協力していきたいと思った。

### 美浜区連協

実はベイトウンの中で、ベイトウン女子部というものが自発的に結成された。だいたい30から40歳くらいが中心で、現在80名くらいの会員がいる。彼女たちはFacebookやTwitter、LINE等のSNSをうまく活用して動いている。町内自治会からもいくらか補助している。彼女たちをうまく活用できればと考えていて、そういった取り組みをしているので紹介だけさせていただく。

### 市長

ベイトウン女子部はおもしろいと考えている。そういった方たちをどういう風に取り込み、連携していくのかということはこれからの課題になろうかと思われる。例えば、幕張の地域でもSNS上で繋がり、かなり広い範囲で自主的に清掃活動等されている団体もある。地域運営委員会にもそういった方々を取り込めれば良いと考えている。

### 美浜区連協

ベイトウン女子部はあくまで任意団体であるので、いろいろ難しい面もあるとは思われる。しかし、SNSの活用は、非常に連絡体系を強化できる。情報が瞬時に伝達できる点は強みであると思う。この情報網等をうまく利用していければと思う。

### 市長

組み合わせの仕方だと思われる。SNS上だけ、もしくは今までどおりのやり方だけではいけないと思う。例えば、最近であれば学校の同窓会の呼びかけをする際、半分はFacebookで、もう半分は従来通りの案内をするといったような形を用いているところもある。

既存の地域で活動する方々とSNS上で繋がっている方々が最終的に結ばれていく場所があれば、トータルで、地域のために行動した方々が世代を超えて連携できる母体ができいくと考えている。

### 美浜区連協

何か意見を求めるとなった際も、LINEの方が反応を得やすいこともある。ただ、慣れていない方には

従来通りの文書のやり取りが必要であるので、その両者をうまく活用していくことが大事であると思う。

### **若葉区連協**

つい先日、避難行動要支援者名簿をいただいたが、名簿の中には町内自治会員ではない方も含まれている。そういった方たちと、どのようにコンタクトを取れば良いのか悩んでいる。特にアパートの方に対して苦慮している。

また、機械的に名簿が作成されているため、居住実態と一致していない箇所もいくつかある。

### **市長**

実態に則して名簿を作成することは難しい。やはりデータを基に機械的に作成せざるを得ない部分はある。町内自治会に加入しているかどうか、そこに居住実態があるかどうかといったことを個々別に判断することは難しい。地域としては、名簿を受け取っていただき、これは町内自治会員だけでやろうということも一つの判断であるし、そうではなくて、せめて居住実態があるところだけは会員でなくてもケアしていこうという考えも一つであろう。

こちらが名簿を提供する際に、少なくとも、せねばならないという義務を要しているわけではない。あくまで、地域の方が支え合い、助け合いの地域づくりをする際に、オプションとして提供しているものであるので、そういった割り切りで良いかと思われる。

### **緑区連協**

財政的に難しいことは把握しているが、過去の懇談会で、おゆみ野に芸術文化ホールを建てて欲しいと要望したことがある。

そういった意味でも、おゆみ野を芸術文化の薫るまちにしたいと考えている。先日、おゆみ野地区でまちカフェライブコンサートを開催した。子どもが育つ時やまちが育つ時に、芸術文化という要素も重要なことだと考えている。こういった取り組みをしていることを紹介する。

### **花見川区連協**

千葉市の高齢化、人口減少対策について、これは市全体で検討されていることなのか、それとも市長から各区に何か考えるよう指示を出すことを検討しているのか知りたい。各区の事情がそれぞれ異なるであろうが、早く対策をしておかないと、やがて町内自治会が消滅してしまうであろう。こういった問題についてももう少し検討していただきたい。

### **市長**

市の重要政策の一つが、産業と人口の集積を継続することであると思っている。都市計画のマスタープランの素案も公表されているが、土地利用のあり方についてしっかり議論し、それぞれの地域の土地の可能性を最大限引き上げていきたいと考えている。

また、交通アクセスの問題も含めて、当然、人口維持、増加のための取り組みをしていきたい。例えば、子育てしやすいまちをつくり、人口増加を図る一環で、保育所の待機児童の問題も取り組んでいる。他にも、今後は高齢化が進んでいくので、地域包括ケアシステムの実現のためにも、あんしんケアセン

ターの増設等を含め、ネットワークづくりを構築していきたい。そういった考えを持っている。

#### **花見川区連協**

区にも検討してもらいたい。

#### **市長**

まちづくりという大きな話になってくれば、当然本庁側で行う必要があると思うが、各区は自主的に予算を持っているし、区の計画の中でも、できる限り、地域目線での活性化をしていきたいと考えている。

#### **花見川区連協**

日頃思っていることであるが、千葉市として大賀ハスをどうしていきたいのか方向性が見えない。千葉公園の大賀ハスについては、多くの箇所では情報を発信されているが、東大の本家の大賀ハスについては何もされていない気がする。ちはなちゃんの露出度も含めて、宣伝が少し足りない気がする。

#### **市長**

大賀ハスのために活動くださり感謝している。私も公園部隊には話をしているが、大賀ハスは市の花である割にアピール度が弱いというのはおっしゃるとおりであると思う。以前は、公園に一本ずつ大賀ハスを植えるという話もあったようだが、やはり市外の方に大賀ハスを感じられるようにしなければ、ある種自己満足で終わってしまう。そうではなくて、大賀ハスを感じていただけるまちづくりの中での一環としてどうしていけば良いかということについて、部にも検討してもらいたいと話をしている。この話は所管にも伝えておく。また、これは都市のアイデンティティに関わることなので大事にしていきたい。

終了